

【施策の柱 1】一人ひとりの自主的な地球温暖化対策を広げる

基本方針1-1 地球温暖化に関する環境学習の普及

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) 第3期 |
|------------------------------|---------------------------|------------------------------|---------------------|---|-----|--|----------------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | |
| 施策①学校教育などにおける環境学習への支援 | | | | | | | |
| ① | 教育総務課/ 教育指導課/ 環境政策課 | 「わかば環境ISO」の取組 【重点】 | 継続実施 | ・各校(園)から提出される各種書類により計画的に取組みが実践されていることを確認した。また、ホームページにおいて、取組み状況を2回更新した。 ・民間幼稚園5園において、取組みを継続するとともに、未加入の民間幼稚園へ参加を呼びかけた。その結果、平成28年度から新たに1園の参加の承諾を得た。 | ○ | ・担当者研修会の実施やホームページによる情報発信により、わかば環境ISOへの理解が深まり、学校(園)での円滑な取組みに繋がっている。 ・継続取組みの5園に加え、翌年度から1園の新規参加により、環境学習の充実に繋がっている。 | ○ |
| ① | 保育課 | 保育園における環境への取組の促進 | 継続実施 | ・行事の際にペットボトルなどの廃材を利用して作品を作成した。ゴーヤ等を利用した緑のカーテンの取組みや、水遊びの際に節水や排水の再利用を心がけるなどの環境配慮を呼びかけた。(9園で実施) ・環境配慮行動チェックシートを全ての民間保育園に配布し、環境に対する意識を高めてもらった。 | ○ | ・保育園で作品を制作する際には廃材を利用するなど、環境に配慮した取組みを積極的に行った。また、節水に関しては園児たちに周知を行い、環境に配慮する意識を高めた。 ・環境に配慮する意識は定着しているものと考えられる。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課/ 環境政策課 | 「ごみ学級」等の実施 【重点】 | 継続実施 | 小学校4年生を対象に4月から6月にかけて市内28校で実施し、2,199人が受講した。 | ○ | 市内小学校4年生全校生徒28校に計画どおり実施できた。 | ○ |
| 施策②子どもの環境活動への支援 | | | | | | | |
| ② | 環境政策課/ 教育研究所 | 環境学習教材や情報の提供 【重点】 | 継続実施 | ・教材の貸出3回、ひらつか環境学習ガイドホームページの更新を行った。 [アクセス数: 3,309件] ・環境学習教材の貸し出し。 学習教材「わたしたちの平塚」を配布した。 | ○ | ・ワットチェッカー、ソーラーカー、手回し発電機、書籍等を貸し出した。ひらつか環境学習ガイドホームページのアクセス数は昨年度より約1,000件増加した。 ・学習教材「わたしたちの平塚」を市内小学校の新3年生に配布した。 | ○ |
| ② | 環境政策課 | 子ども環境教室及び環境ポスター・作文コンクールの開催 | 継続実施 | 子ども環境教室(参加者…海編:31人、里山編:94人、川編:150人)や環境フェア等にて環境教室を実施した。また、小中学生を対象とした環境ポスター・作文コンクール(応募者434人)を実施した。 | ○ | 多くの子ども達の参加があり、環境に関して身近に感じ、考えてもらうきっかけ作りができた。 | ○ |
| ② | 青少年課 | こども自然体験教室の開催 | 継続実施 | ・びわ青少年の家で、農作業や収穫物の加工・創作活動などを行った。 ・こども自然体験教室(びわっ子クラブ)を会員32人で年9回開催した。 | ○ | 計画どおり農作業や収穫物の加工・創作活動を実施できた。 | ○ |
| 施策③環境学習の機会の提供 | | | | | | | |
| ③ | 環境政策課 | 里山体験教室等の開催 | 9回開催 | 里山体験教室等を11回開催した。 | ○ | 里山保全モデル事業を7回、市民・大学交流事業を3回、夏休み子ども環境教室を1回開催した。 | ○ |
| ③ | 青少年課/ 中央公民館 | 青少年育成・生涯学習等における環境学習の促進 | 継続実施 | 地区公民館において、地域の自然環境について学ぶ講座や平塚市内の清掃施設を親子で見学する講座を開催した。(9講座・参加者数延べ233人) | ○ | 地域ニーズを把握し、地域団体等と共催して、地域に生息する生き物の観察会や清掃施設の見学を行うなど、環境を身近に感じるような講座を実施した。その結果、前年度よりも講座数、参加者人数が増加した。 | ○ |
| ③ | 博物館 | 博物館における環境に関する講座等の開催 | 継続実施 | セミの抜け殻を調べる行事(2回、38人)、金目川の野鳥を観察する自然教室(1回、9人)、吉沢地区でキノコの観察会(1回、1人)を開催した。市内の植物相の状況調査と植物標本の整理を進めた。 | ○ | 参加者は、野鳥や植物・昆虫の観察や学習を通じて、身の周りの環境と生物の関わりを学び、野生生物への理解が促進された。 | ○ |
| ③ | 環境政策課 | 市民活動団体等と連携した出前講座等の実施 【重点】 | 10回実施 | 地球温暖化対策出前講座を10回開催し、316人が参加した。 | ○ | 各小中学校や公共施設等へ案内チラシを配布するとともに、広報にて周知を行った結果、計画どおり10回実施することができた。 | ○ |

基本方針1-2 環境に関連する産業活動や地域活動などの振興

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) 第3期 |
|---------------------------------|-------------------|------------------------------------|---------------------|---|-----|--|----------------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | |
| 施策①地球温暖化対策に取り組む市民活動への支援 | | | | | | | |
| ① | 協働推進課/ 環境政策課 | ひらつか市民活動センター、環境活動支援事業、ひらつか市民活動ファンド | 支援実施 | 「公益信託ひらつか市民活動ファンド」により市民活動団体5団体の内、環境に関する活動も行っている3団体へ助成金を交付した。 | ○ | 27年度助成対象の5団体の中で環境に関するものは、植栽、海岸保全、放射能に関する普及啓発などの活動をしている3団体に合計23万円を助成した。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課みどり公園・水辺課 | 環境保全活動団体への支援 | 継続実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化団体及び美化推進団体に対し支援した。 【公園愛護会】 ・公園愛護会への交付金の交付 ・連絡協議会への補助金の交付 ・総会、研修会の実施、会報の発行 【緑化モデル団体】 連絡協議会との連携として、情報提供や事業支援を行った。 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・活動団体に対する適切な支援であると考えている。 ・交付金及び補助金の交付により活動の支援を行うとともに、総会・研修会・会報発行を通して情報提供を行った。 ・総会等の場を通じて団体間のコミュニケーションが図られてるとともに、団体が行う市内の緑を増やす活動の支援ができています。 | ○ |
| ① | 環境政策課 | 市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進 | 継続実施 | 里山保全モデル事業実施時に里山保全に関する研修等を実施した。ホームページ等を利用し、里山保全事業に関する情報の発信を行った。 | ○ | 市民ボランティア等に向け、里山保全に関する研修等を実施しました。ホームページを利用し、里山保全モデル事業等の情報を発信した。 | ○ |
| 施策②地球温暖化対策に関する交流や情報交換の促進 | | | | | | | |
| ② | 環境政策課 | 「ひらつか環境ファンクラブ」の活動の促進 | 継続実施 | 活動発表会を4回実施した。 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・4月に「緑化まつり」に参加し、パネル展示と環境教室を実施した。 ・7月に平塚市役所1階多目的スペース等で開催された「ひらつか環境フェア2015」に参加し、パネル展示と環境教室を実施した。 ・3月に平塚市役所1階多目的スペースにて、「ひらつか環境パネル展」を実施した。 ・3月に勤労会館にて、「ひらつか環境ファンクラブ活動発表会」を実施した。 | ○ |
| 施策③地球温暖化対策に寄与する産業の振興 | | | | | | | |
| ③ | 産業振興課 | 平塚市環境共生型企業懇話会 | 懇話会開催 | 平塚市環境共生型企業懇話会を6回開催し、その他に役員会も行った。 | ○ | 企業間の事例発表や講演会、施設見学の開催と活動発表のための展示会への出展などによって、企業間における環境負荷の軽減への取組を支援した。 | ○ |
| ③ | 産業振興課 | 平塚市企業立地促進補助金（環境設備助成） | 見直し後の制度運用 | 広報紙、ホームページ、チラシなどを通じて環境設備導入に対する助成制度の周知を図った。1社に対して助成した。 | ○ | 計画どおり事業者への周知・情報提供を行った。 | ○ |

基本方針1-3 エコライフ・エコオフィス等の普及

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) 第3期 |
|---------------------------------------|--------|--|---------------------|--|-----|--|----------------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | |
| 施策①家庭のエコライフ推進への支援 | | | | | | | |
| ① | 下水道経営課 | 雨水の有効活用の促進 | 助成実施 | 14基の補助金申請に対し14基に補助金を交付した。 (雨水貯留槽：14基 浄化槽転用雨水貯留槽：0基) | △ | 広報やホームページで周知したほか、申請書様式の改善を図った結果、概ね計画どおりの申請があった。制度のさらなる周知を今後の課題とする。 | ○ |
| ① | 環境政策課 | 新エネルギーに関する普及啓発の実施 | 継続実施 | ・緑化まつりやひらつか環境フェアなどのイベントにおいて、市民団体とともに新エネルギーに関する環境教室等を実施した。 ・市ホームページで家庭向けの新エネルギーに関する取組の情報提供を行った。 | ○ | ・おもちゃを使った太陽光発電の体験やソーラーオルゴールの工作など、子どもの目線に合わせた環境教室を開催した。 ・市ホームページにより、市内の各家庭に新エネルギーに関する取組を周知できた。 | ○ |
| ① | 環境政策課 | 一般住宅への太陽光発電システムの設置に対する助成 【重点】 | | — | — | 概ね目標を達成したこと、太陽光発電システムの設置費用も下がってきたことにより、平成27年度から補助制度を廃止した。 | ○ |
| 施策②事業所のエコオフィス推進への支援 | | | | | | | |
| ② | 環境政策課 | 新エネルギーに関する普及啓発の実施 | 継続実施 | ・緑化まつりやひらつか環境フェアなどのイベントにおいて、市民団体とともに新エネルギーの普及啓発を実施した。 ・市ホームページにより、事業所向けの新エネルギーに関する取組の情報提供を行った。 | ○ | ・予定どおり、緑化まつりやひらつか環境フェアなどのイベントにおいて、新エネルギーの普及啓発を実施できた。 ・市ホームページにより、市内の事業所に新エネルギーに関する取組を周知できた。 | ○ |
| 施策③「ひらつかCO2CO2(コツコツ)プラン」の拡充と推進 | | | | | | | |
| ③ | 環境政策課 | 「ひらつかCO2CO2(コツコツ)プラン」の取組の呼びかけ等 【重点】 | 年10,000人参加 | 小中学校を通じて市民等への普及、太陽光発電システム及びエネファームの設置補助金を交付した市民へ取組の呼びかけ等を行い、小中学生9,175人、一般家庭1,546人 合計10,721人の参加があった。 | ○ | 市内全小学校を通して小学生の家庭(家庭数)や太陽光発電システム及びエネファームの設置補助金を交付した市民等へ配布したことにより、参加者が増えた。 | ○ |

【施策の柱2】都市の低炭素化と気候変動への適応を図る

基本方針2-1 交通の低炭素化

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) |
|------------------------------|-----------------|---|---------------------------|--|-----|---|---------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | 第3期 |
| 施策①公共交通のより使いやすいまちづくり | | | | | | | |
| ① | 交通政策課 | 地域公共交通強化の検討 【重点】 | 公共交通軸の検討 | 他市での導入事例等を研究し、本市における地域公共交通の導入の検討を行った。 | △ | 検討は深まってきているが、基準の方向性はまだ定まっていない。 | ○ |
| ① | 交通政策課/ 都市整備課 | 交通結節点強化の検討 | 地域と連携して 整備を検討 | ・東橋付近の用地交渉を開始し、地権者と借地条件等について協議を行い、調整が整った。 また、バス事業者との協議の結果、バス事業者の負担により案内看板を掲出してもらうこととなった。 ・新幹線新駅期成同盟会の場で取り組む方向性の確認や、関係自治体間での進め方の協議を行った。 | ○ | ・借地料の予算化等、庁内調整の必要がある。 ・ツインシティの交通結節点を強化するため、今後も引き続き新幹線新駅期成同盟会の場で協議、調整を行う。 | — |
| ① | 交通政策課 | 路線バスの利便性の強化 (路線バス総合環境整備 事業計画、バス優先レーン 関連) 【重点】 | 路線バス総合環 境整備事業の実 施 | ・神奈川県地域交通研究会において、バス交通の充実や生活路線の運行確保等について調査、検討した。 ・速度低下の主な原因であるボトルネック解消には、交差点改良等が必要で莫大な費用と時間がかかるため、中長期的に「幹線バス、路線バスの再編」の中でバス事業者等と検討した。南北都市軸において、幹線バス・路線バスの再編をしていく中で、バス専用レーン・公共交通優先信号・連節バス導入等の環境に配慮した高次な機能を備えた路線バスシステムの検討をバス事業者と協議した。 | — | 中長期的な調査・検討をしており、評価は行っていない。継続的に検討を行っていく。 | ○ |
| ① | 交通政策課 | 路線バスの利便性の強化 (情報提供関連) 【重点】 | | 情報提供の強化に向けたバスマップの作成を、バス事業者と協働で検討している。 | × | 検討の進展は小さい。具体的な協議へと進めていきたい。 | ○ |
| ① | 交通政策課 | 路線バスの利便性の強化 (待合い環境整備関連) 【重点】 | バス待待合い環 境整備事業の実 施 | 上屋設置に対する補助制度(案)を作成した。 | △ | 案の作成はできたが、制度実施にまで至らなかった。 | ○ |
| ① | 都市整備課 | ツインシティでの公共交 通の利用促進 | 準備 | 県及び土地区画整理組合と協議、調整を行った。 | ○ | 土地区画整理組合が設立し、事業の実施段階に入った。今後とも継続して公共交通利用促進に向けた協議、調整を行っていく必要がある。 | — |
| 施策②自転車のより使いやすいまちづくり | | | | | | | |
| ② | 道路整備課 交通政策課 | 自転車通行帯の整備 【重点】 | 整備工事 | 平塚駅花水線に920mの自転車通行帯の整備を行った。 | ○ | 計画どおり整備ができ、自転車走行環境の向上が図られた。 | — |
| ② | 道路整備課 交通政策課 | 平塚駅西口周辺の自転車 走行環境整備の検討 【重点】 | 歩行者、自転車 の安全な通行帯 の確保 | 歩行者、自転車の安全な通行帯の確保に向け、交通管理者等と協議を行った。 | △ | 協議に時間を要しており、整備方針の確定までには至っていない。 | — |
| ② | 交通政策課 | 民間自転車等駐車場整備 への支援 【重点】 | 必要に応じた支 援 | 駐輪場の整備状況や放置自転車の数などを調査した結果、民間駐輪場の必要性があることから補助金制度を継続した。 また、民間駐輪場の整備を促進するために広報ひらつか等で周知に努めた。 | ○ | 民間駐輪場1か所の開設を支援した。 | ○ |
| 施策③交通の分散と円滑化 | | | | | | | |
| ③ | 道路整備課 | 幹線道路の整備 | 整備工事・用地 買収 | 幹線道路(北金目真田線)等の整備を実施した。 | ○ | 計画通り整備ができ、交通混雑の緩和等が図られた。 | — |
| ③ | 道路整備課 | 交差点の改良 | 用地買収・整備 工事 | 真土金目線交差点改良のための用地買収を行った。 | ○ | 予定した用地について取得が完了した。 | ○ |
| ③ | 交通政策課 | モビリティ・マネジメン ト等の検討 | 具体化を検討 | 具体的な取組みは未実施。 | × | 総合交通計画では中長期的な取組方策として位置付けているため、今後検討する。 | — |
| 施策④クリーンエネルギー自動車等の普及促進 | | | | | | | |
| ④ | 環境政策課 | 電気自動車等普及・促進 事業 【重点】 | | 電気自動車の購入について20件の助成を行った。 | ○ | 広報やホームページで周知した結果、計画どおり助成することができた。 | ○ |

基本方針2-2 緑と水を活用した熱対策の普及

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) 第3期 |
|--------------------------|-----------|----------------------|---------------------------|---|-----|---|----------------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | |
| 施策①まとまりある樹林地の環境保全 | | | | | | | |
| ① | 環境政策課 | 里山保全モデル地区における活動の推進 | 継続実施 | 土屋頭無地区で里山保全モデル事業を7回実施した。 | ○ | 5月と10月から3月まで月1回のペースでモデル事業を開催し、累計で99人の参加者があった。 | ○ |
| ① | みどり公園・水辺課 | 樹林地の保全に向けた各種法制度の活用 | | 制度の研究をしたが、活用には至らなかった。 | × | 樹林地の保全事業への新たな特定財源となる補助金制度などが無い。また、保安林などの指定を受けられる当課管理地が無い。 | — |
| ① | みどり公園・水辺課 | 保全樹・保全樹林の指定と保全 | | 保全樹木56本 保全樹林8箇所 保全生垣5箇所 | × | 基準に基づき候補樹木の調査(9箇所)をしたが、新規指定にふさわしいものはなかった。維持管理の助成を行った。 | ○ |
| ① | 農水産課 | 県との連携による湘南海岸砂防林保全の推進 | 湘南海岸砂防林の保全 | 平塚市森林整備計画の指定エリアを継続した。 | ○ | 砂防林指定区域の指定エリアを維持した。 | — |
| 施策②農地の環境保全 | | | | | | | |
| ② | 農水産課 | 農業振興地域整備計画の推進 | 農用地の保全 | 農振農用地区域の指定を継続した。 | ○ | 農振農用地区域の指定を継続し、優良農用地を維持、保全した。 | — |
| ② | 農業委員会事務局 | 農地流動化の促進 | 継続実施予定 | 新たに貸し借りが設定された農地面積7.5ha | ○ | 農業者の高齢化、後継者不足により農地の遊休化防止、解消のため、農家双方の間に入って貸し借りの促進をした。その結果、年間目標7ha以上の農地集積・集約ができた。 | ○ |
| ② | 農水産課 | 市民農園設置への支援 | 設置への支援及び補助 | 広報ひらつかや市ホームページ等により農地地権者へのPRを行うとともに、農園開設の意向のある農地について事前調査を実施した。その結果、城島地区(小鍋島)に1園開園した。 | ○ | 市民農園開設地のバランスをはかりながら、城島地区(小鍋島)に1園(27区画)開設した。区画割りや物品購入費の一部を補助する等開設のための支援を行った。 | ○ |
| ② | 農水産課 | サポートファーマーの育成 | 援農組織への新規登録 | 市民10人を対象に、湘南農業協同組合の専門講師の指導の下、事業を実施した。(農業実習:37回) | ○ | サポートバンクなどの援農組織や援農ボランティアへ誘導した。 | ○ |
| ② | 農水産課 | 農業理解の促進 | イベントへの支援 | 米づくり体験隊、及びでてこいまつり等の開催を支援した。 | ○ | イベントの支援を行なうことで、市民に対し農業理解の促進を図った。 | — |
| ② | 農水産課 | 「ひらつか花アグリ」の活動推進 | 運営 | ・親子野菜づくり体験&採れたて野菜調理教室を春(全4回)と秋(全4回)に実施した。 ・農の体験・交流館たよりを年4回発行した。 ・花菜ガーデン、あさつゆ広場等と連携しひらつか花アグリ収穫祭の一環として農の体験・交流館収穫祭を実施した。(参加者:540人) ・水田農業における休耕期に、農業者の参画のもとクリムソクローバーやリコリスの景観形成作物を栽培した。 | ○ | ・体験事業等を通して市民に対して農業との触れ合いの機会を創出するなどして、農業理解促進を図ることができた。 ・ひらつか花アグリ景観づくりを実施し、来場者楽しんでいただいた。 ・新たに取り組んでいるリコリスによる景観創出は、植え付けから開花まで時間がかかるため、長期的な視点での計画的な取り組みが必要である。 | ○ |
| ② | 農水産課 | 担い手総合対策の推進 | 農作業受託組織の拡充 担い手支援協議会の支援 | 再認定対象者に対して農業経営改善計画作成支援を行った。また、経営など相談を受けた方に対応した。 再認定:71件 新規:2件 変更:5件 | ○ | 認定農業者の再認定活動を確実に行うことを中心に、新規認定希望者に対応した。 | ○ |
| 施策③公園や街路樹の整備と活用 | | | | | | | |
| ③ | みどり公園・水辺課 | 住区基幹公園の整備 | | 高麗山公園桜補植工事を実施した。 | ○ | 計画どおり工事が実施できた。 | ○ |
| ③ | 道路整備課 | 道路整備時の緑化の検討 | 継続実施 | — | — | 道路整備時に残地の発生がなく、緑化の検討ができなかった。 | ○ |

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 第3期 |
|-----------------------------|-----------|-----------------------|---------------------|---|-----|--|-----|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | |
| 施策④建物や敷地の緑化と水の気化熱の活用 | | | | | | | |
| ④ | 環境政策課 | クール・ビル作戦等の実施 | 継続実施予定 | クール・タウン作戦を実施し、554株のゴーヤ苗を112世帯に配布した。 | ○ | 昨年度よりも多くのゴーヤ苗を各世帯に配付できた。 (昨年度比249株、50世帯増) | ○ |
| ④ | みどり公園・水辺課 | 公共施設の緑化手法の検討 | | 情報収集を行った。 | ○ | 公共施設整備の際は、整備担当課と調整を進めていきたい。 | — |
| ④ | みどり公園・水辺課 | まちづくり条例に基づく事業所等の緑化の促進 | | まちづくり条例に基づき、緑化指導を実施した。 | ○ | 緑化計画書の提出は55件あり、その他にも出来るだけ多くの緑地を確保するよう指導した。 | ○ |
| ④ | みどり公園・水辺課 | 生垣化への支援と新たな緑化制度の導入 | | 新たな生垣設置の6.6mに対して助成を行った。 | × | いけがき設置奨励制度により、1件(前年度より5件減)に対して助成を実施した。 | ○ |
| ④ | みどり公園・水辺課 | 緑化の普及啓発活動の実施 | | ・第42回平塚市緑化まつりを開催し、2日間で47,000人の来場があった。 ・第42回平塚市緑化ポスター・標語コンクールを実施し、ポスター627点、標語1,080点の応募があった。また、ポスター全作品を展示した展示会には、4日間合計950人の来場があった。 | ○ | 開催期間2日間で前年比4,000人減となった。また、環境配慮型イベントとしてゴミの減量化に取り組んだ。 | ○ |
| ④ | 都市整備課 | ツインシティでの緑化の導入・推進の検討 | 実施 | 土地区画整理組合と協議、調整を行った。 | ○ | 土地区画整理組合が設立し、事業の実施段階に入ったことから、緑化の配置等について具体的な協議、調整を行っていく必要がある。 | — |
| ④ | 都市整備課 | ツインシティでの透水性舗装等の導入の検討 | 実施予定 | 関係行政機関と協議、調整を行った。 | ○ | 透水性舗装等の導入を図るため、今後も引き続き関係行政機関と協議、調整を行う。 | — |

【施策の柱3】低炭素となる新たなエネルギー技術を活用する

基本方針3-1 太陽光発電などの自然エネルギー利用の普及

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) |
|-----------------------------|-----------------|--|---------------------|--|-----|--|---------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | 第3期 |
| 施策①太陽光発電システムの率先的な導入 | | | | | | | |
| ① | 建築住宅課/事業 担当課 | 公共施設への太陽光発電 システムの率先導入 | 適宜導入 | 太陽光発電システムを設置した市 民病院新棟が完成した。 | ○ | 太陽光発電システム導入により、自然 エネルギー利用の普及に配慮した公共 施設の整備が進んだ。 | ○ |
| 施策②太陽エネルギー利用への支援 | | | | | | | |
| ② | 環境政策課 | 一般住宅への太陽光発電 システムの設置に対する 助成及び普及啓発 【重点】 | | 緑化まつりやひらつか環境フェア などのイベントにおいて、市民団 体とともに新エネルギーに関する 環境教室等を実施した。 | ○ | ・一般住宅への太陽光発電システム の設置に対する助成は、概ね目標を達成 したこと、太陽光発電システムの設置 費用も下がってきたことにより、平成 27年度から補助制度を廃止した。 ・おもちゃを使った太陽光発電の体験 やソーラーオルゴールの工作など、子 どもの目線に合わせた環境教室を開催 した。 | ○ |
| 施策③県のスマートエネルギー構想との連携 | | | | | | | |
| ③ | 環境政策課 | かながわソーラープロ ジェクトとの連携の検討 【重点】 | 検討予定 | 「屋根貸し事業」について、他市 の設置事例の調査・研究を実施し た。 | ○ | 他市の屋根貸し事業参入事例や、かな がわスマートエネルギー計画の事業事 例などについて、動向を調査した。 | — |
| ③ | 環境政策課 | スマートエネルギー構想 との連携の検討 【重点】 | 検討予定 | 創エネ、省エネの観点から家庭用 燃料電池（エネファーム）の補助 制度を行った。 | ○ | 70件に対して補助を行った。エネ ファームを普及推進することで、住宅 のスマートハウス（創エネ）を図るこ とができた。 | — |

基本方針3-2 二酸化炭素の排出を抑える様々な技術の普及

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) |
|---------------------------------|-------|-----------------------------------|---------------------|---|-----|--|---------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | 第3期 |
| 施策①公共施設等のエネルギー対策の推進 | | | | | | | |
| ① | 建築住宅課 | 市営住宅の省エネ改修 | 年2~3棟改修 | 市営東中原住宅住棟3棟の屋上に 断熱工法を用いた防水改修を施工 した。 | ○ | 市営住宅の省エネルギー対策が進ん だ。 | — |
| ① | 危機管理課 | 防犯街路灯の省エネ改修 | 年150灯交換 | ・新たに設置した市管理防犯街路 灯60灯にLEDを使用した。 ・自治会等が管理する防犯灯23 5灯のLED導入に対する助成を 行った。 | ○ | ・新たに設置した市管理防犯街路灯 の全てにLEDを使用した。 ・助成対象とした239灯のうち、9 8.3%にあたる235灯にLEDが 使用された。 | ○ |
| 施策②二酸化炭素排出を抑えるエネルギー対策の普及 | | | | | | | |
| ② | 環境政策課 | 新エネルギー導入に関 する調査・検討、普及啓 発の実施 | 検討 | ・新エネルギーに関する情報収集 などを行った。 ・緑化まつりやひらつか環境フェア などのイベントにおいて、市民 団体とともに新エネルギーに関 する環境教室等を実施した。 | ○ | ・新エネルギーに関する情報収集な どを進めた。 ・おもちゃを使った太陽光発電の体験 やソーラーオルゴールの工作など、子 どもの目線に合わせた環境教室を開 催した。 | ○ |
| 施策③ツインシティのエネルギー対策の検討 | | | | | | | |
| ③ | 都市整備課 | ツインシティでの新エ ネルギーシステムの導入の 検討 | 準備・実施 | 他市の先進事例の研究を行った。 | ○ | 今後とも環境共生のまちづくりに向 けた先進事例等の研究が必要である。 | — |

【施策の柱4】ごみを減らし、廃棄物・排熱を有効に使う

基本方針4-1 ごみの焼却処理の減量化

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) |
|-------------------------------|----------|--------------------|---------------------|---|-----|--|---------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | 第3期 |
| 施策①3Rの推進 | | | | | | | |
| ① | 環境施設課 | 再生家具のリユース促進 | 継続実施 | 市民から出された粗大ごみの中から再利用可能な家具を修理再生し、市民に提供して再利用を促した。 | ○ | 計画どおり再生家具の提供を年6回約50点ずつ実施して再利用を促した。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 家庭ごみの収集有料化の検討 | | 廃棄物対策審議会では粗大ごみ等の手数料に係る改定等の審議をしたが、ごみ袋の有料化については議論していない。近隣自治体の動向調査に努めた。 | △ | 有料化の理由が導入自治体の事情により異なるため、慎重な議論の進め方が必要である。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 多量排出事業者指導事業 | 継続実施 | 63の事業所に対し、減量化等計画書を提出させることにより、事業者自身に現状を把握させ、減量化計画を立てさせた。また、当市も内容を把握するとともに15の事業所に立入調査を実施した。 | ○ | 計画どおり実施できた。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 平塚市ごみ減量化・資源化協力店制度 | 継続実施 | 新規協力店の申し込みもあったが、商店の閉鎖等により、拡充はできなかった。 平成27年度協力店数：193店 (平成26年度比 減11、増3) | △ | ごみ減量化・資源化協力店への新規の申し込みはあるが、閉店する店舗が多く協力店数は減少している。新規登録の啓発が必要である。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 平塚市ごみ減量化推進委員会の活動支援 | 継続実施 | 交付金による活動支援やイベント開催への支援、ちらし作成などを行った。 | ○ | ごみ減量化推進委員会によるごみの減量化の啓発に対し、十分な支援をした。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | ごみに関する啓発活動の実施 | 継続実施 | 28校から申し込みがあり、全校で実施した。 | ○ | 市内全校で実施することができ、ごみの減量化及び資源化の推進については、計画どおりに取り組むことができた。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 剪定枝資源化事業 | 4,000t | 10月にごみ分別区分を変更し「剪定枝」を追加した。同月から二宮町ウッドチップセンターで資源化を開始した。 | × | 半年間に左記施設に搬入した量は約800トンであるが、本計画の数値目標と大きく乖離している。 ※計画値4,000tは平成24年3月策定「湘南西ブロック平塚・大磯・二宮ブロックごみ処理広域化実施計画」に基づくもので、平塚市以外の大磯町と二宮町分を含む数値。同年12月策定「二宮町(仮称)剪定枝資源化施設PFI導入可能性調査委託報告書」を踏まえ想定年間処理量を2,034tへ下方修正。現在そのうち1,681tを平塚市の計画値としている。 | ○ |
| ① | 循環型社会推進課 | 生ごみ自家処理への支援 | 助成台数を勘案して検討 | コンポスター52台を販売し、電動生ごみ処理機37件に対して補助を行った。 | △ | コンポスターは前年実績を下回ったが、電動生ごみ処理機は前年実績を上回った。 | ○ |
| 施策②広域的なごみ処理と新たな処理施設の整備 | | | | | | | |
| ② | 環境施設課 | ごみ処理広域化実施計画 | 厨芥類資源化施設稼働 | 平成26年1月に厨芥類資源化施設の整備を取りやめた。 | — | 環境事業センターの能力を踏まえた有効性の検証や広域実施計画等への影響を検討した結果、整備を中止した。 | ○ |

基本方針4-2 廃棄物・排水からのエネルギーの利用

| 施策 | 主管 | 取組名 | H27年度計画 (2015年度) | 27年度実施結果 | | | 環境基本 計画(改) |
|-----------------------------|-------|---------------------|---------------------|---|-----|--------------------------------|---------------|
| | | | | ①実績・実施内容 | ②評価 | ③評価の説明や取組に対する自己評価 | 第3期 |
| 施策①ごみ処理から発生する排熱利用の推進 | | | | | | | |
| ① | 環境施設課 | 環境事業センターの発電 施設整備 | | 発電余剰分として、 25,399,770kwh の電力を売電した。 | ○ | 環境事業センターの運営事業者が発電 余剰分を売電した。 | ○ |
| ① | 環境施設課 | 環境事業センター周辺整 備事業 | | 工事契約を締結し、工事着手し た。 | ○ | 順調に工事を行っている。 | ○ |

【評価指標について】(数値目標がある場合：達成率)

- ・ 目標を達成した場合又は目標達成と同等の状況と考えられる場合・・・○(90%以上)
- ・ 概ね計画どおり実施したが、目標を達成できなかった場合・・・△(70%以上90%未満)
- ・ 未実施又はあまり進展せず目標を達成できなかった場合・・・×(0%～70%未満)
- ・ 方針を変更若しくは廃止した場合又は実績がでておらず、評価できない場合・・・—